

花鳥風月・短歌

自販機に閉店知らず貼り紙が

地元感謝昭和は消える

徳永 誠一

PKが明暗分ける残酷さ

失敗チーム一層しずむ

リハビの妻の次女をほっと見て

嬉しく嬉しかりけり

庭先にほほえみつつ羽根をつく

子供と居わば我もうれしも

曾我部 福石

一年の最後の日記書き終えて

コロナ静まれ祈りつつねる

一色 ノブ

時が過ぎ賀状書く手も疎かに

今は宛名もキーの操作で

佐伯 定則

各部屋に新暦つり皆元気

笑顔たやさぬぬくき正月

山に雪残れど春が里にまで

来たような空こちふく風よ

雄銀杏三日で紅葉一日で散り

一葉残らず裸木となる

加藤 イサ子

雪だるまつくりたいなと言ふ孫を

宥めいっしよに泥だんごづくり

鉢植えの母好きだった福寿草

時々話し掛けてみる空

小田和子

風花に飛びつきながら子どもらは

次の遊びを考えてをり

氷点下示し道路の温度計

運転注意歩みも注意

小田慶喜

母と娘は一月生れ「一緒にしよう」

寿司バスデイこれ旨きかな

初競りや水産市場の八幡浜

タイハマチなど各地に出荷

石井トシ子

書き初めににが手部門を表わせり

孫と約束指切りげんまん

活け初めは庭の南天若松を

根締めは水仙一重と八重で

小林 泰子

冬日照る八十路を越えし長き影

苦楽を越えて今は極楽

寒中や垣根山茶花五十事

ピンク白色ほのかに咲けり

塗堀 良子

子や孫に施設でわたすお年玉

夢の中なる懐しき母

三谷 福美